

より多くの参加による多様な活動をめざして-名称変更後2年目のご挨拶*

松田亮三[†]

昨年度本学会は「日本医療福祉政策学会」へと名称変更を行い、これまでの事業を継続しつつ新たな装いで取り組んできました。幸いにも以下で述べるように、これらの事業はいずれも順調に滑り出しており、今年度は各種の事業がさらに活発になるような取り組みを進めたいと考えています。

ただ、その前に昨年度の取り組みを簡単に振り返っておきましょう。まず、偶然ではありませんが、役員の中でおそらくもっともウェブでの発信に詳しいと思われた私自身が分担し、独自ドメイン(<http://jshwp.org/>)による学会ホームページの開設を行い、会員向けメールマガジンを立ち上げました。SNSなどを活用して学会の存在がより幅広いみなさんに知られていくよう、会員各位にもご活用いただければ幸いです。

次に、学会事業の中心の一つである学術誌については、新たにオンライン・ジャーナルとして『医療福祉政策研究』を発刊することとし、3月に無事第1号を発行することができました。各号をまとめたファイルが、すでにホームページで配信されており、間もなくJ-stageでの配信も行われます。この発刊に関わり、編集・版組会社の選定、ISSNの取得、J-stageへの登録作業など、多くの作業が必要となりましたが、通常編集業務に加えて上記の点に労力を割いていただいた高山一夫編集長(当時)、そしてJ-stage関係で多くの作業を担っていたただいている佐藤英仁さんに、この場を借りて感謝申し上げます。

最後に、これもまた学会事業の中心の一つである研究大会です。日本医療福祉政策研究学会としての第1回研究大会は、2017年12月2日(土)に神戸大学鶴甲第2キャンパスで「医療・福祉政策研究の今後を展望する」をテーマとして開催されました。研究大会開催にあたり、パネルディスカッション、講演の内容を含んだプログラム第1報を8月上旬に、一般演題と抄録を含めたプログラム第2報を10月下旬にウェブに掲載し、若干遅れてニュースレターとして郵送いたしました。このような従来から比べると前倒しの日程で準備をすすめることができたのは、報告者ならびに企画運営に関わったみなさんのご協力の賜物です。特に、

*日本医療福祉政策学会ニュースレター第3号(2018年6月発行)に掲載。web掲載にあたり、書式ならびに一部誤字・脱字を修正しています。

[†]日本医療福祉政策学会会長、立命館大学産業社会学部・教授。

開催会場の手配と当日の運営について周到にご準備いただいた井口克郎さん、そして一般演題に関する運営をご担当いただいた村上慎司さんにお礼を申し上げます。

さて、昨年度のニューズレターで、私は、「本会の新名称にふさわしい医療福祉分野の政策に関わる多様な研究を発展させるために、研究大会と学会誌の両方を充実」していくこと、「研究大会を軸にした年次計画を重視しつつも、小規模な学会の特徴を生かし、機動的な運営」を行っていくこと、「インターネットを活用した学会内でのコミュニケーションの活発化と広報の充実」を進める、という抱負を述べました。今年度は、昨年度固められた事業の基礎をふまえて、この抱負に沿った新たな取り組みを準備していきたいと考えています。

本ニューズレターでお知らせしているように研究大会のメイン企画はおおむね決定しており、第2回の研究例会も、シンポジウムとあってよい内容となっております。このような企画性をもった研究会を継続するとともに、ウェブでの研究会の配信、会員交流を促す情報交換の仕組みなども検討し可能であれば取り組んでいく所存です。引き続き分担を明確にした機動的な運営に取り組めます。

最後に、会員みなさまからの、ご意見、ご提案そして各種事業への参加を心よりお待ちしております。私にお伝えして、私のご挨拶とさせていただきます。